

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1207

令和8年10月

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



イロハモミジ（大阪市内）

トピックス：技術開発と普及に関する取組（森林技術・支援センター）

ニュース：山口森林管理事務所、三重森林管理署、企画調整課

花草木：キバナサフランモドキ

我が署のスタッフ：兵庫森林管理署

森林事務所等紹介：上賀茂森林事務所（京都大阪森林管理事務所）

国有林最前線：福井森林管理署

技術開発と普及に関する取組

【森林技術・支援センター】

○普及に関する取組

森林技術・支援センターは、全国7つの森林管理局に1箇所ずつ設置され、森林・林業に関する技術開発とその成果を民有林への普及につなげる業務を中心に担っています。

近畿中国森林管理局 森林技術・支援センター（岡山県新見市）では、列状間伐やコンテナ苗植栽、早生樹（センダン・コウヨウザン）の植栽試験などの育林技術をはじめ、UAV（ドローン）や地上レーザ計測などのICT技術を活用した森林資源の効率的な管理手法の実証に取り組んでいます。これらの成果については、現地視察や技術普及活動を通じて、民有林の森林・林業関係者の皆様への普及を進めています。

こうした取り組みの一環として、当センターで視察可能な技術開発の内容を分かりやすくまとめた「森林・林業技術視察プログラム」（以下「プログラム」という。）を作成してい

ます。プログラムでは、コンテナ苗、早生樹、列状間伐、スマート林業など12のメニューを用意し、それぞれの見どころや視察に必要な時間を掲載しています。関心のある項目を自由に組み合わせることができるため、効率よく技術や取組への理解を深めていただくことができます。また、複数のメニューを組み合わせた4つのおすすめコースを用意しており、半日から1日で効率よく当センターの技術開発の取組をご覧いただけます。森林・林業に馴染みのない方でも参加しやすい内容となっており、実際に現場を見ながら楽しく学ぶことができます。

今後も本プログラムを通じて、地方公共団体等の職員や森林組合、林業事業者、企業・個人山林所有者、学生の皆様など、民有林の森林・林業に携わる方々への技術的支援に積極的に関わり、現地視察のご要望が

ございましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。

ホーム＞森林管理局へようこそ＞森林管理局の概要＞森林技術・支援センター＞森林・林業技術視察プログラム

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/shisatsu_program.html

項目	メニュー	視察ポイント
植栽	大苗植栽、通年下刈り	○大苗の植栽コスト ○スギ・ヒノキ大苗等の下刈り時期ごとの初期成長
	早生樹センダン	○瀬戸内式気候での早生樹センダンの生育状況 ○施肥の有無による成長の相違
	早生樹コウヨウザン	○コウヨウザンの生育状況、スギとの成長比較 ○ノウサギ被害の状況や被害対策、萌芽による再生状況
	エリートツリー（ヒノキ）	○エリートツリーの初期成長 ○コンテナ苗植栽時期による成長の相違
	低密度植栽	○植栽本数別の生育状況 ○保育コスト分析や林冠閉鎖時期の予測結果等
間伐	列状間伐	○初めての列状間伐から30年経過した林分の状況 ○無間伐林分等との比較
針広混交林化	針広混交林化（列状間伐の実施）	○列状間伐実施後（平成19～20年度）の高木性広葉樹の状況、3伐6残の幅広の列状間伐の状況
	針広混交林化（天然広葉樹の活用）	○天然広葉樹の活用によるヒノキ植栽本数の低減 ○地植え、下刈り等の省略
	複層林施業（帯状伐採）	○下木の成育状況 ○上下二段林との違い
その他	里山広葉樹林の活用・再生	○里山林の整備・活用手法 ○天然更新（天然下種更新、萌芽更新）の状況
	スマート林業	○地上レーザスキャナによる高精度な森林情報の収集 ○ドローンで撮影した写真を用いた林分解析
	ノウサギ捕獲罠	○ノウサギN型誘引捕獲罠の仕組み、設置方法 ○現地の枝条等を活用した捕獲罠の試行状況

森林・林業技術視察プログラムの概要



森林調査後のデータ分析の様子



列状間伐箇所の視察



○技術開発に関する取組

・下刈り省力化に関する取組の歴史

林野庁が令和8年4月に公表した「再造林をめぐる状況」によると、再造林コスト425万円/haのうち、下刈り経費は102万円/haと約24%を占めており、下刈り作業の省力化や低コスト化は民有林・国有林に共通する重要な課題となっています。

近畿中国森林管理局の前身である大阪営林局では、昭和40年代には下刈り試験地を設置し、下刈り方法（区域全域を刈る全刈、苗の間を筋状に刈る筋刈、苗の周りを刈る坪刈等）による省力化と植栽木の生長に関する調査を実施してきました。近年ではドローンなどで撮影した画像を活用して「下刈りが不要な箇所」を見極めたり下刈り回数を減らしたりするなど、「いかに効率的に下刈りを行うか」という視点へと発展しています。

当センターにおいても、間伐材の樹皮から作ったシートによる下草や雑草の生育を抑える効果の検証や、無下刈り施業に適した苗木の種類の比較、通年下刈り※試験など、省力化に向けた技術開発に取り組んできました。なかでも、通年下刈り試験では、苗木の成長に大きな影響はなく、下刈り作業中の苗木の切損や、作業する人の熱中症・ハチ刺されを減らせる可能性が確認されました。

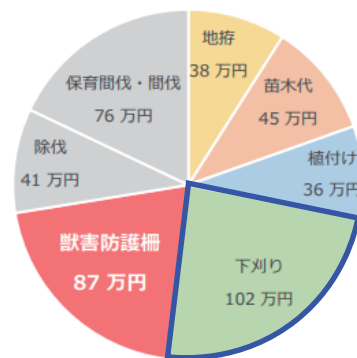
現在は、新見市内の^{あかたき}赤滝国有林、^{かまたに}釜谷国有林、^{たかたろう}高太郎国有林において、植栽木の成長量調査と併せて、下刈りの実施時期や回数の違いが成長に及ぼす影響について調査を進めています。

このうち釜谷国有林では、令和7年度に夏と冬、令和8年度には夏に下刈りを行いました。その結果、下刈り時期や回数の違いによる苗木の成長への大きな影響は今のところ確認されていません。また、気温の高い夏を避けて作業することで、作業環境の改善や安全性の向上も期待されています。これらの結果は、時期を弾力化して下刈りを行うことの有効性を示す結果となりました。

※ ^{つうねん}通年下刈りとは、植栽した苗木の周囲に生える雑草木を、特定の時期だけでなく必要に応じて時期を問わずに刈り払う保育作業のことです。

「再造林をめぐる状況」令和8年4月
林野庁公表資料より引用（青色の枠部）

■ 再造林費用に占める獣害対策費用



通年下刈り実施後の状況
(釜谷国有林)



スギ大苗無下刈り区成長状況（釜谷国有林）



夏下刈り実施状況（釜谷国有林）

今後も調査を継続し、データの蓄積に努めるとともに、下刈り作業のさらなる省力化と低コスト化に向けた技術開発を進め、成果の創出と普及に取り組んでいきます。